

ぶどう短梢無核栽培 芽かき、新梢管理講習会 資料

令和元年5月8日長野農業改良普及センター

本年の生育状況

樹種	品種名	区分	発芽	展葉	開花	満開	落花
ブドウ	有核巨峰 (松代)	本年	4月24日				
		平年	4月21日	—	6月3日	6月7日	6月10日
		前年	4月17日	4月20日	5月28日	6月1日	6月7日

1 種なしぶどうの好適樹相

(1) 望ましい新梢長

展葉 7～8枚時 50cm 前後
開花始期 80～100cm
満開期 110cm

有核巨峰と比べ、強めの新梢を維持する
(弱樹勢は粒肥大が劣る)

表1 好適樹相の比較

	目指す樹相 (新梢伸長)	好適樹相 (新梢長)		
		開花始期	満開 70 日後	満開 70 日以降の新梢管理
種なし (短梢)	開花までに一気に 90cm 位まで伸長させ、2 回の摘心(開花前と果粒軟化期頃)で 150cm 程度に抑えられる	80～100cm	150cm 程度 (摘心を行う)	遅伸びする新梢は全て摘心し、150cm 程度に抑える

2 新梢管理 (短梢部分と主枝延長枝は、芽かきの方針が異なるので注意)

(1) 主枝延長枝の芽かき

副芽は早めにかき取る (短梢部分も)

主枝延長枝から発生した副芽は新梢誘引時にハサミで切る。※手で欠き取らないように！



副芽が大きく伸長している場合は、基部をハサミで切る。
手で欠き取ると、残った本芽にまで傷が及び、誘引時に折れやすくなる。

(2) 短梢部分の誘引と芽かき (芽かきは誘引後に行っても良い)

ア 30cm 程伸び (展葉 4～5 枚頃)、花穂の素質がわかり次第、必要に応じて芽かきをする。

短梢部分の新梢が伸びやすいので、あせって芽かきをしなくても良い。

イ 原則として、芽座の基部側の新梢を残し、1 芽座に 1 新梢とする。

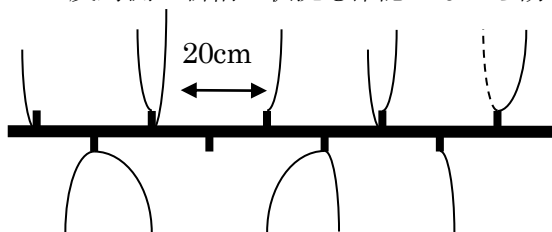
ウ 基部側の新梢の伸びが悪かったり、判断時期が遅れた時は、やむを得ないので先端側の強い新梢を残す (短梢せん定の維持が困難になりやすいが 生産量を優先させる)。

エ 新梢は、目標本数の 2 割多く残す。(最終目標本数：片側 20cm に 1 本)

特に、誘引時に折れそうな位置にある新梢の付近には多めに残す。

オ 欠損部がある場合は、2 芽残す。

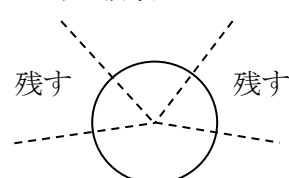
反対側の新梢の状況も確認しながら誘引準備を行う。



欠損部は、原則として隣や反対側の新梢を利用して埋める。

図2 欠損部の補充方法

上芽は誘引しづらい



下芽は誘引で折れやすい

図1 残す芽の位置

最終的に片側 20cm に 1 本程度新梢が欲しい。
特にナガノパープルは誘引時に折れやすいので、芽かき時に目標本数より多く残しておく。

(3) 新梢誘引のポイント：慌てない（ナガノパープルは発芽後1ヶ月頃から誘引を行う）

※ナガノパープルは他の品種に比べて作業適期が短いので、他品種より優先し、必ず適期に実施する。新梢の誘引を急ぐと折れやすいので、慌てずに適期に行う。

- ① 直立した新梢は基部（2～4節間）を稔枝してから誘引する。
ナガノパープルは必ず稔枝する（5月下旬～6月初旬）。稔枝から数日後以降に誘引。

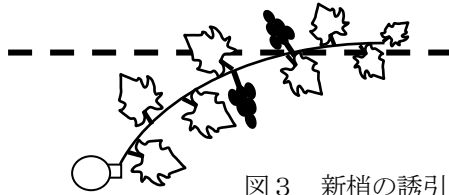


図3 新梢の誘引

房の形状を確認し、細長い方の花穂が棚下～横向きになるようにする。
細長い花房の方が摘粒は楽である。

- ② 誘引すると基部から折れやすい。誘引（棚付け）できても、数時間後に折れる場合もある。
（曇天日または晴天時の昼前～午後が折れにくい）
- ③ 新梢長が50～60cm位になった頃から、主枝に直角に平行誘引する。
できるだけ多くの新梢の誘引を同時に行う。主枝単位で新梢の誘引を終わらせるとよい。（部分的に誘引した場合、風が吹くと誘引した新梢に負荷がかかり折れる危険性が高い。途中で誘引作業をやめない。）
- ④ 芽座の基部側の新梢が弱い場合は立たせておき、先端側の新梢を棚付けする。夏場に伸長が旺盛になったら切除する（弱いまま残れば次年の剪定時に基部側まで切り戻すことが可能）。
- ⑤ 誘引して20cmに1新梢になるようなら、不要な新梢は欠き取る。

(4) 新梢先端の摘心

1m以上伸長したら開花前に展葉11～12枚程度の位置で摘心する。樹勢が弱い場合は摘心しない。樹勢が強く、開花前に新梢長が1mに達しても当分開花しそうに無い場合は摘心を見合わせ、開花が始まってから摘心を行う。摘心が早く、開花前に副梢の生育が旺盛になると着粒が不安定となる場合がある。

3 無核処理（アグレプト液剤またはストマイ液剤20の散布）※散布時期が遅れないよう注意

- ① 満開予定日の14日前～開花始期にアグレプト液剤またはストマイ液剤20の1000倍液を10a当たり200～2500散布する。処理回数は、いずれかの薬剤を1回。
- ② 房に直接薬液が付着しないと無核化効果はない。房がある程度大きくなり、垂れたのを確認してから散布する。
- ③ 短梢栽培では花房浸漬でも良い（ドリフト防止）。

4 開花前の摘穂（花穂の整理）

- ① 誘引時に使用したい花穂が下向きになるようにしてあるかと思うが、穂先の形状が確認でき次第、1新梢1花穂としてもよい。
※慣れていない場合は、下向きの花穂の整形に成功したら、もう一つの房を落とす。
- ② 主穂が奇形な場合等は、副穂や上段支穂を利用する。

5 かん水

萌芽前から発芽期に充分なかん水を行い、発芽を揃える。

開花期までは7日間雨が降らない様ならかん水を行う。

水量が確保できない場合は、主幹周辺（半径2～3m以内）のみのかん水でよい。

この資料は平成31年4月10日現在の農薬登録状況をもとに作成しました。
農薬の使用に当たっては、最新の登録内容を確認のうえ使用しましょう。



芽かきの適期（穂を持ったことを確認してから生育が極端に強いもの、弱いものを欠く。）